

# ダリアの冬春出し作型における大苗、暗期中断電照および高節位採花による多収生産技術

苗木・花き部

## 1 背景、目的

ダリアの周年的な需要の伸びに伴い、県内では冬春出し作型の電照加温栽培が増加しています。しかし、この冬春出し作型では花びら（舌状花）の減少による品質低下や冬期の低温による収量の低さなどが問題となります。

そこで、舌状花の増加に効果がある「暗期中断電照」と増収に効果が高い「大苗」および「高節位採花」を組み合わせた高品質切り花の多収生産技術を開発しました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) 冬春出し作型で安定多収を図るには、通常よりも3～4週間早く栽培を開始して育成した大苗（2.5号ポット苗）を8月下旬～9月上旬に定植し、定植直後から暗期中断電照（23時～翌2時）を行い、高節位（切り花長70cmを確保した最上位の節）で採花します（図1）。
- 2) 大苗定植、暗期中断電照、高節位採花を組み合わせることで、慣行と比較して、採花本数は「かまくら」で130%、「黒蝶」で154%に増加します（図2）。
- 3) 開発技術で栽培した花は、慣行と比較して、一番花の舌状花率が高く、「黒蝶」の花径はやや大きくなり、同等以上の品質になります。開花日は、一番花で7～19日遅くなり、二番花で14～20日早まります（データ略）。
- 4) 10a当たりの所得は、慣行と比較して、175%に増加します（表1）。

### 3 主要なデータ・画像など

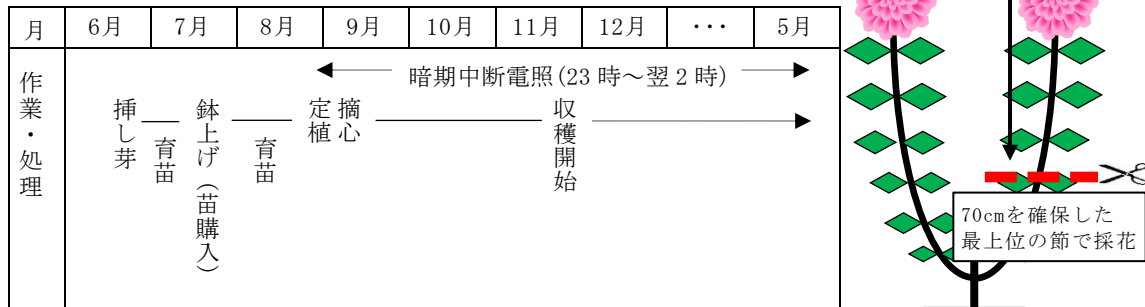


図1 ダリアの冬春出し作型における大苗、暗期中断電照および高節位採花による多収生産技術の概要

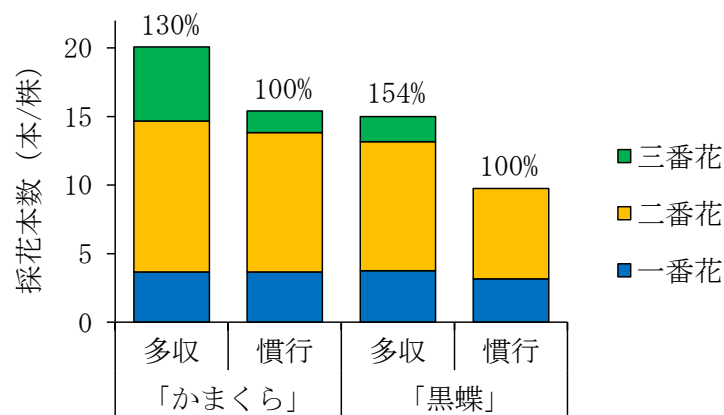


図2 定植苗の大きさ、電照方法および採花位置と採花本数

- 注) 1. 多収区：大苗、暗期中断電照（23時～翌2時）、高節位採花。  
 慣行区：セル苗、明期延長電照（14.5時間日長）、側枝基部2節残し採花。  
 2. 採花本数は、切り花長70cm以上かつ露心花ではない切り花本数。  
 3. 摘心後、4本/株に仕立て、二番花以降は無整枝。最低温度10℃で管理。  
 4. 平成30年9月1日～令和元年5月10日における切り花本数。

表1 10a 当たりの経営試算

試験区	粗収益 (万円)	経営費 (万円)	所得 (万円)
多収	680 (144%)	379 (126%)	301 (175%)
慣行	471	299	172

- 注) 1. ( )内は、慣行比を表す。  
 2. 「かまくら」、「黒蝶」の栽培比率は1:1とした。  
 3. 粗収益は、月別販売単価（(株)大田花きの三年平均(H28.7～R1.6)）と月別採花本数を乗じた。  
 4. 10a 当たり2,400株定植し、内25%を購入苗とした。  
 5. 自家労働時間は795時間で試算した。  
 6. 雇用労賃は、労働時間 多収:577、慣行:175時間として、労働単価814円/時間(H30.10.1時点福岡県最低賃金)で試算した。